

洋らんの新たな植え込み材の検索

1. 成果の要約

洋らん栽培で、安価に入手できるおがくずチップほか 2 資材を利用した植え込み材を検討したところ、おがくずチップは 1 次育苗でバークとほぼ同等の生育を示した。しかし、2 次育苗では地上部の生育に差はなかったが、根重や輪数が少なくなった。

2. キーワード

ファレノプシス、1 次育苗、2 次育苗、おがくずチップ

3. 試験のねらい

洋らん栽培では、植え込み材として輸入バークが用いられているが、腐熟程度など品質面での不安定さが問題であり、また将来的に入手が困難になることも懸念されている。

そこで、輸入に頼らず国内産原材料で安価に入手でき、安定した品質を保持した新たな植え込み材を検索する。

4. 試験方法

表-1 に示した植え込み材を用い、洋らん（ファレノプシス）を各資材当たり 5 鉢栽培した。

平成 27 年 3 月 19 日にフラスコ苗を 2.5 号深透明ポリポットに鉢上げし、1 次育苗を行った。平成 28 年 1 月 14 日に 3.5 号深透明ポリポットに鉢上げし、2 次育苗を開始した。平成 28 年 9 月 18 日から花芽誘導を開始した。

5. 試験結果および考察

(1) 1 次育苗終了時の茎葉重、根重は、おがくずチップ区で対照のバーク区と同程度以上で、良好な生育を示したが、もみ殻チップ区、間伐材チップ区は著しく生育が劣った（表-2）。

このため、もみ殻チップ区と間伐材チップ区は 1 次育苗で試験を終了した。

(2) 2 次育苗終了時の葉数、茎葉重は、おがくずチップ区とバーク区間に大きな差は見られなかった。根数は、おがくずチップ区で 43 本と多かったが、短い根が多く、根重は 29.3g とバーク区と比べて軽かった（表-3）。

(3) 開花時、おがくずチップ区はバーク区と比べて、輪数が 2 輪少なく、花茎長は約 10cm 短かった。小花もやや小さく、商品性はやや劣ると思われた（表-4）。

(4) おがくずチップは、1 次育苗ではバークと同様のかん水管理で問題ないと思われたが、保水性が高く鉢底に水が停滞しやすいことが認められた。鉢容量が大きくなる 2 次育苗以降では、根腐れを起こしやすいため、根重や輪数が少なくなったと推察された。

（担当者 研究開発部 花き研究室 小玉雅晴*）

* 現下都賀農業振興事務所

表－１ 供試した植え込み資材

資材	備考
もみ殻チップ	凝固剤 20%の圧縮成型板をチップ化
おがくずチップ	凝固剤 20%の圧縮成型板をチップ化
間伐材チップ	製品名 ‘Weed Lock’ をチップ化
バーク (対照)	ラジアータパイン樹皮

注1. 各素材は、ニュージーランドバークの規格 No5 の大きさを基準に、厚み 5mm×幅 (縦横) 9~12mm 程度に裁断したものを使用。

表－２ 各植え込み資材における 1 次育苗終了時の生育

資材	葉数	根数	茎葉重	根重
	枚/株	本/株	g/株	g/株
もみ殻チップ	5.3 b ²⁾	15.3 b	12.5 c	6.4 b
おがくずチップ	7.0 a	21.3 a	36.4 a	24.1 a
間伐材チップ	6.0 ab	16.7 ab	15.0 bc	9.0 b
バーク	6.8 a	20.3 ab	23.1 b	17.9 a
有意性 ¹⁾	**	*	**	**

注1). 有意性の**は 1%、*は 5%水準で有意差あり。

2). 多重比較は、Tukey 法により同符号間に 5%水準で有意差なし。

表－３ 各植え込み資材における 2 次育苗終了時の生育

資材	葉数	根数	茎葉重	根重
	枚/株	本/株	g/株	g/株
おがくずチップ	12	43	143.5	29.3
バーク	11	25	151.1	70.8

表－４ 各植え込み資材における開花状況

資材	花茎分化日	開花日	輪数 輪	花茎長 cm	小花の大きさ	
					縦 mm	横 mm
おがくずチップ	10月19日	2月28日	8.5	85.5	98.1	111.5
バーク	10月28日	3月2日	10.8	95.8	106.1	124.1
有意性 ¹⁾	*	**	**	*	ns	**

注1). 有意性の**は 1%、*は 5%水準で有意差あり。